

今週（11月11日から11月15日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、先週の流れを引き継ぎ、週初から14日までは各業態の資金調達ニーズは弱く推移した。積み最終日には、調整のために取り上がる先が見られた。日銀当座預金残高は、大きな増減は無く、405兆円前後で推移した。無担保コールO/N物は、週初の11日（月）から14日（木）までは、大手行を中心に調達量が減少し、低位のレートでの取引となった。出会いのレンジは▲0.087～▲0.06%近辺が中心となり、下限レートでもカウンターパーティが見つからずに出し残るオファーも発生した。一方で、積みの最終日となる15日は、調整のビッドが増加したことで出会い水準が上昇し、▲0.075～▲0.05%近辺の出会いが中心となった。無担保コールO/N物加重平均レートは、11日の▲0.065%から始まり、14日まで徐々に低下していった。週末の15日は次の積み期にかかることもあり、上昇した。無担保コールの市場残高は、O/N物でのオファー出し残りの影響もあり、7兆円台での推移にとどまった。ターム物は、オファーサイドが少なく閑散気味であったが、来積み期スタートの1～2W物で▲0.03%近辺の引き合いが散見された。

13日には3市場合同BCP訓練の一環として、固定金利方式による全店共通担保資金供給オペ(O/N物)が1,000億円オファーされ、50億円の落札結果となった。

●レポ市場

今週のGC T/Nは今積み期間内の取引となる11日（月）から13日（水）までは▲0.29～▲0.09%で推移した。積み期間終盤となり、需給の偏りからレートが急低下する場面も見られた。新しい積み期間に掛かる14日（木）と15日（金）は▲0.12～▲0.06%のレンジで推移した。

SC個別銘柄では、5年133～141、10年336～356、20年162～170、30年59～64、40年9～12などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、需給環境の改善が見られ、足元ファンディングレートが低下する中、債券相場に買い戻しの動きが入ったこともあってか堅調な展開となった。出合いは、3M～1Y物で▲0.215%程度が見られた。

12日に実施された短国買入オペは、1,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.013%、按分落札利回較差+0.012%と、在庫調整の売りから弱めの結果となったものの、売り急ぐ動きは見られなかった。

15日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.215%から▲0.220%まで買い進まれる展開となる中、平均落札利回▲0.2137%、按分落札利回▲0.1989%と、WI取引ほどの強さは見られない結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.213～▲0.210%と堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、一部電機業態から3,000億円弱にのぼる非常に大型の発行案件が見られたほか、小売・食品業態等からもまとまった発行が見られたこともあり、6,400億円程度の週間償還総額に対して、8,900億円程度の週間発行総額に膨らんだ。市場残高は、20兆円台前半から半ばで推移しており、着実に増加している。発行レートについては、市場残高の影響もあり、僅かに上昇傾向が見られており、マイナス圏での発行は減少している。一方で、引き続きキャッシュ潰しと思しき資金運用ニーズは底堅く、レートが大きく上昇する局面にも至ってはならず、殆どの銘柄で0%程度の狭いレンジで決着する展開となっている。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 （億円）
11/11（月）	23,331.84	△ 0.070	109.03	△ 0.065	△ 0.191	4,046,500
11/12（火）	23,520.01	△ 0.040	109.14	△ 0.070	△ 0.262	4,058,000
11/13（水）	23,319.87	△ 0.050	109.04	△ 0.072	△ 0.132	4,049,800
11/14（木）	23,141.55	△ 0.075	108.73	△ 0.074	△ 0.113	4,049,600
11/15（金）	23,303.32	△ 0.075	108.57	△ 0.063	△ 0.072	4,041,000

来週（11月18日から11月22日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
11/18 (月)		流動性供給 4,000億円 11/19発行			
11/19 (火)		TB1Y 19,000億円 11/20発行			10月の米住宅着工件数
11/20 (水)	10月の貿易統計(財務省 8:50)	20Y 9,000億円 11/21発行	交付税借入 10,500億円 11/29借入		
11/21 (木)					10月の米中古住宅販売
11/22 (金)	月例経済報告(内閣府) 10月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 43,100億円 11/25発行	流動性供給 6,000億円 11/25発行	交付税借入 10,500億円 12/4借入	

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給予因
11/18 (月)	800	▲ 2,400	▲ 1,600	国債買入 CP買入 国債補完	▲ 100 400	1,500	1,800	200	労働保険料揚げ TB3M発行▲43200償還43000
11/19 (火)	0	▲ 4,000	▲ 4,000				0	▲ 4,000	流動性供給▲4000
11/20 (水)	▲ 1,000	3,000	2,000				0	2,000	TB1Y発行▲19000償還20300 変動15Y償還6400 エネルギー対策借入▲6500期日6000
11/21 (木)	▲ 1,000	▲ 12,000	▲ 13,000				0	▲ 13,000	20Y発行▲9000
11/22 (金)	▲ 2,000	1,000	▲ 1,000	CP買入		4,000	4,000	3,000	交付税借入▲10500償還10500
週間合計	▲ 3,200	▲ 14,400	▲ 17,600	—	300	5,500	5,800	▲ 11,800	

11/18は日銀予想、11/19以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、今積み期のような前半の過剰な取り上がりは無いと見られるが、15日の調達は積み最終の調整に加えて来積み期を睨んだものであり、下のレートでは信託・都銀からビッドが入ることが予想される。地銀業態においてもタームでのビッドが増加する一方でオファーはそれほど見られておらず、調達ニーズはあるものと思われる。無担保コールO/N加重平均レートは▲0.06～▲0.05%程度を予想する。レボ市場は、新しい積み期間に入り、レートは全般的に上昇すると見られる。GC T/Nは▲0.12～▲0.03%での推移を予想する。短国市場は、19日に1Y物、22日に3M物の入札が実施予定となっている。2回の入札が需給環境にどう影響するか、市場動向が注目される。CP市場は、11月後半は賞与などの要因から一年間でも資金調達需要の強まる時期に入るため、今後の事業法人の発行姿勢が注目されるほか、19日には今月唯一のCP等買入オペが予定されており、動向が注視される。

主要なイベントとしては、国内では22日に10月の全国CPIが予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入